

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの

7月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.221 2025.7

紹介内容（6/1～6/30）

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
 - 気仙沼農改：南三陸町にて、ネギ防除作業省力化に向けたドローンの農薬散布試験を実施しました
 - 登米農改：第1回登米圏域の農業振興に関する情報連絡会を開催しました
 - 亘理農改：令和7年産高館地区加工用たまねぎ現地巡回指導を行いました
 - 大崎農改：農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会の総会が開催されました
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
 - 大河原農改：大河原地域次世代農業研修会（みやぎ農業未来塾）が開催されました
 - 亘理農改：「いちごトレーニングセンター」第一期生成果報告会開催！
 - 登米農改：登米市4Hクラブが市内アートイベントにスタッフとして参加しました
 - 美里農改：美里4Hクラブ 広域交流会を開催しました
 - 石巻農改：みやぎ農業未来塾「石巻地域の農業紹介講座」を開催しました
- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
 - 大河原農改：ドローンを用いた水稻湛水直播栽培に取り組んでいます
 - 仙台農改：JA仙台乾田直播栽培講習会・現地検討会が開催されました
 - 仙台農改：イネ紋枯病対策・高温対策を学ぶ
 - 仙台農改：水稻乾田直播栽培の研修会と現地検討会を開催しました！
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
 - 亘理農改：令和7年度宮城県さつまいも栽培研修会が開催されました
 - 気仙沼農改：令和7年度南三陸ぶどう栽培花穂整形技術研修会が開催されました
 - 亘理農改：さつまいもの定植が進んでいます
 - 大河原農改：スマート農機の活用によりさつまいもの定植が行われました
 - 登米農改：登米管内各生産部会の総会が開催されました
 - 亘理農改：りんご摘果講習会が開催されました
 - 栗原農改：JA新みやぎ栗っこきゅうり部会の現地検討会が開催されました
 - 栗原農改：「くりはらマルシェ」にて栗っこズッキーニの販売が行われました！
 - 亘理農改：JA仙台亘理花卉部会土壌管理講習会が開催されました
 - 大河原農改：蔵王地区いちじく芽かき講習会が開催されました
 - 大河原農改：令和7年産たまねぎの生産者巡回と栽培研修会を実施しました
 - 亘理農改：みやぎ亘理いちご部会の令和8年産育苗研修会が開催されました
 - 石巻農改：長葱現地検討会開催「暑さ対策！」

- 仙 台農改：春ねぎの出荷に向けて
- 大河原農改：そらまめの出荷に向けた現地検討会が開催されました
- 亘 理農改：名取岩沼地域で各種きゅうり講習会等が開催されました
- 大河原農改：仙南地域の園芸振興について意見交換を行いました
- 仙 台農改：ＪＡ新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました
- 登 米農改：ＪＡみやぎ登米スプレーグク部会で出荷査定会、現地検討会が開催されました
- 石 巻農改：オリーブの巡回指導が行われました
- 大河原農改：つるむらさきの現地検討会が行われました
- 登 米農改：ＪＡみやぎ登米米山支部タマネギ部会の現地検討会が開催されました
- 石 巻農改：加工用ばれいしょの生育を確認！石巻地域現地検討会を開催

⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・12

- 石 巻農改：今年の乾田直播はどうか？水稻乾田直播現地検討会
- 農業振興課：作業時間が１／３に！ＲＴＫシステムを活用した超省力的な除草剤散布を実証しました
- 登 米農改：ＪＡみやぎ登米稲作経営部会の現地検討会が開催されました
- 登 米農改：良質米生産を目指して、つや姫栽培講習会が開催されました
- 仙 台農改：第１３回全国和牛能力共進会北海道大会に向けた２４ヵ月早期肥育試験の巡回を行いました
- 大河原農改：第１３回全国和牛能力共進会北海道大会に向けた２４ヶ月早期肥育試験巡回が開催されました
- 登 米農改：小麦ほ場巡回指導会が開催されました

⑥ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・14

- 亘 理農改：「なとり・ぐるっと親子講座」が開催されました
- 仙 台農改：大衡村産トマトを使った“トマトクリームリゾット”が販売されています！
- 気仙沼農改：酒米サポーターズクラブの田植えが開催されました
- 亘 理農改：まぼろしのメロン「クールボジャ」が出荷開始されました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・15

- 仙 台農改：環境にやさしい防除技術として、天敵ダニ製剤を導入しました
- 美 里農改：さつまいも栽培の省力化に向けた「生分解性マルチ」の実演会を開催しました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○南三陸町にて、ネギ防除作業省力化に向けたドローンの農薬散布試験を実施しました
令和7年6月16日
気仙沼農業改良普及センター



令和7年6月5日、南三陸町の株式会社グリーンファーマーズ・宮城のネギほ場にて、宮城県農業・園芸総合研究所の協力のもと、ドローンによる農薬散布試験を実施しました。

排水性が悪く防除機が入りにくいほ場や中山間地に点在するほ場が多いことから、(株)グリーンファーマーズ・宮城ではドローンによる防除作業の省力化を検討しております。今回の試験では、農薬の付着状況を確認するため、感水紙を飛行ルートに沿って設置し、ドローンからの強風による葉折れが生じないように飛行高度を調整しながら、殺菌剤と殺虫剤を散布しました。

散布後には農薬がネギに付着していること、葉折れが発生していないことを参加者で確認しました。今後は、20日間隔でドローンによる農薬散布と2週間ごとの病虫害調査を行い、防除効果を検証していきます。

普及センターでは、ネギの防除作業省力化に向け、引き続き支援を行っていきます。

○第1回登米圏域の農業振興に関する情報連絡会を開催しました
令和7年6月17日
登米農業改良普及センター

令和7年5月22日に、登米市農政関係各課、農業委員会、JAみやぎ登米営農部各課の担当者を参集し、登米圏域の農業振興に関する情報連絡会を開催しました。

普及センターから、令和7年度の普及計画の内容

や各プロジェクト課題の進捗状況、課題について説明し、関係機関それぞれの立場から活発な意見を出していただきました。

また、農地集積・集約に向けた取組に関しては、地域計画策定後の地域の動き、担い手への集積の可能性について情報交換を行うと共に、グループ申請を検討しているみどり認定に向けた進捗状況について、JAみやぎ登米より情報提供いただき、関係機関が連携していくことを確認しました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、農業者のニーズをとらえた活動を推進していきます。

○令和7年産高館地区加工用たまねぎ現地巡回指導を行いました
令和7年6月23日
亘理農業改良普及センター



令和7年産たまねぎの収穫期を前に、名取市高館地区の加工用たまねぎの生育状況を確認するほ場巡回を令和7年6月3日に行いました。当日は生産協議会役員、JA仙台高館地区担当者、普及センター等関係機関10人で29か所のほ場を巡回しました。

今年産のたまねぎの生育は、4月以降に適度な雨があったことで、昨年より肥大が順調に進んでいます。昨年べと病の被害が大きかった反省から、本年は3月から病害株の抜き取りと防除を徹底して行なったことで、どのほ場も良好な生育であることが確認できました。

巡回の結果、収穫量は全体で200tを超えることが予想され、6月からの出荷に向けて期待が高まりました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、たまねぎの安定生産に向けて支援していきます。

○農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会の総会が開催されました
令和7年6月30日
大崎農業改良普及センター





加美町の葉菜山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地である当地域の活性化に寄与してきました。しかし、ここ数年、経営上の課題が顕在化してきていることから、普及センターと加美町ではその改善に向けた様々な支援を行っています。

去る令和7年6月25日には23回目となる通常総会が開催され、令和6年度は前年総会時に宣言した目標金額を上回る売り上げがあったこと、令和7年度は現行の農事組合法人から株式会社への法人形態変更のため勉強会を定期的に開催していくこと、株式会社化に向けた具体的なスケジュールなどが報告されました。また、令和7年度の目標販売額を前年度目標額の20%増とする決意表明がありました。

普及センターからは法人形態の変更が必要となった背景や販売額などの推移について説明を行いました。

今後も中山間地農業の拠点となっている農産物直売所やくらい土産センターの発展のため、プロジェクト課題として様々な取組を支援していきます。

②新たな担い手の確保・育成

○大河原地域次世代農業研修会(みやぎ農業未来塾)が開催されました

令和7年6月16日

大河原農業改良普及センター



令和7年6月3日に川崎町山村開発センターを会場に、大河原地域次世代農業研修会(みやぎ農業未来塾)が開催されました。「みやぎ農業未来塾」は、若手農業者や学生の皆様に、農業を幅広く学んでいただくため、県内9か所にある普及センターごとに開催しているものです。今回は、川崎町との共催で、新規就農者以外の方にも参加いただきました。

研修会では、株式会社渡辺採種場仙台店の櫻井遼介氏を講師に迎え、「これから取り組む秋冬(年明け販売)野菜の栽培」をテーマに、ハクサイ、キャベツ、ダイコン、タマネギ等の栽培の勘どころについて紹介いただきました。

管内の多くの野菜栽培者が参加し、「新品种や栽培方法、留意点など興味深く聞くことができ、今後の作付計画の参考となった」等の感想がありました。

今後も継続的に研修会を開催する等、さらに関係機関と共に支援を続けていきます。

○「いちごトレーニングセンター」第一期生成果報告会開催!

令和7年6月17日

亘理農業改良普及センター



令和7年5月30日、株式会社やまもとファームみらい野を会場に、県や町、JA等関係機関出席のもと「いちごトレーニングセンター」研修生成果報告会が開催されました。

本報告会は1年間の研修を修了した研修生が、同センターでのいちごの基礎知識や生産技術の習得、そして今後の事業計画について発表するものです。

研修生の発表後の質疑応答では、資材高騰等厳しい環境の中での営農開始についての細かな助言のほか、「県の施策に合致する事業の実践に期待する」「仙台いちごの振興に協力願う」などの温かい励ましの言葉などもありました。

研修生2名は、当トレーニングセンターの第1期生で今後事業計画の実現に向けて、生産施設が準備

でき次第、本格的な営農を開始する予定です。

普及センターでは、新たな担い手の育成のため、技術指導等の支援を行っていきます。

○登米市4Hクラブが市内アートイベントにスタッフとして参加しました

令和7年6月17日

登米農業改良普及センター



令和7年6月8日にイオンタウン佐沼で開催された「アートファンタジア TOME」に登米市4Hクラブが参加しました。本イベントは美術関係のイベントではありますが、登米市4Hクラブの知名度向上を目的に3人のクラブ員が参加し、PRを行いました。参加者の中には興味をもってくださる方もおり、会話を通じてクラブの活動やクラブ員自身の営農状況について話し込んでいた様子も見受けられ、登米市4Hクラブの知名度向上の良い機会となりました。

当普及センターは今後も登米市4Hクラブの活動を支援してまいります。

○美里4Hクラブ 広域交流会を開催しました

令和7年6月27日

美里農業改良普及センター



美里4Hクラブは、大崎市（松山、鹿島台、田尻）、美里町、涌谷町の若手農業者で構成され、クラブ員同士の技術研鑽や情報交流を目的に活動しています。その活動の一環として、令和7年5月29日（木）に

若手農業者の交流会を美里町内で開催しました。

現在、県内の各4Hクラブでは、クラブ員の減少・固定化とともに、活動がややマンネリ化してきているという課題があります。このような状況の中、複数クラブで行事を合同開催するなど、広域的な交流を行うことでより充実した活動を目指そうという機運が高まっています。

そこで、今回の交流会は、新たな試みとして近隣の大崎、登米の4Hクラブ員にも参加を呼びかけました。さらに、美里管内の4Hクラブにまだ加入していない若手農業者にも勧誘を兼ねて声がけし、普及センター職員を含めて総勢17名が参加しました。

始めに、美里4Hクラブ小堤会長からクラブの活動紹介を行い、参加者が自己紹介を行った後、情報交換に移りました。初対面の人が多い中でしたが、若手農業者同志ということで大いに盛り上がり、異なる地域の農業の事例を共有することができ、広域的な交流の場としても有意義な時間となりました。

今回の交流会を皮切りに、今後も各クラブの行事にはお互いに参加を呼びかけあうことで、広域的な行事が展開され、活発なクラブ活動が行われることが期待されます。

○みやぎ農業未来塾「石巻地域の農業紹介講座」を開催しました

令和7年6月30日

石巻農業改良普及センター



令和7年6月17日に、令和7年度みやぎ農業未来塾「在学者コース～石巻地域の農業紹介講座」の第1回目を開催しました。

本講座は、高校生を対象に石巻地域農業の優良事例を紹介し、進路選択の参考と学習意欲の向上を図る目的で開催したものです。

今回は、石巻北高校食農系列3年生8人を対象に、「就農・就職に向けた心構え」と題して、東松島市の株式会社イグナルファーム代表取締役社長から、社会人としての5つの心得「挨拶」「時間厳守」「報告・連絡・相談」「コミュニケーション」「自己管理」について、自分の経験を交えて、わかりやすく説明していただきました。また、「大切なことや当たり前のことを分かっている、やりたくないと思ったり、後でやろうと思う自分がある。社会に出ることは自分との戦いであり、辛さを乗り越えてブラックな自分に打ち勝つ大人になってほしい」と、生徒達にエールを送りました。

講演の途中で、社長が生徒一人一人に質問をし、社長と生徒の言葉のキャッチボールが行われるなど、かなり盛り上がった講座となりました。

11 月には 2 年生を対象とした視察研修も計画しています。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○ドローンを用いた水稲湛水直播栽培に取り組んでいます

令和 7 年 6 月 5 日

大河原農業改良普及センター



柴田町の農事組合法人葉坂希望の郷は、農地整備事業が間もなく完了する柴田町葉坂地区の担い手法人です。主な栽培品目は水稲で、今後見込まれる労働力不足への対応として省力化技術導入に積極的に取り組んでいます。

水稲直播栽培は育苗に係る作業時間・人員の削減が可能であり、更に、ドローンを用いた湛水直播栽培では、一般的な湛水直播栽培と比べて播種作業時間を短縮することが期待できます。

法人では昨年度よりドローンを用いた湛水直播栽培に取り組んでおり、今年は 5 月 23 日に播種作業が行われました。代かき後のほ場にゴルフボールを落とし田面の硬さの確認を行った後、ドローンで播種を行いました。

今後普及センターでは苗立ちの確認や生育調査を行い、収穫まで技術支援を行う予定です。

○JA 仙台乾田直播栽培講習会・現地検討会が開催されました

令和 7 年 6 月 12 日

仙台農業改良普及センター



5 月 26 日、J A 仙台主催の乾田直播栽培講習会・現地検討会が開催され、生産者、J A 営農指導員、関係者を含め約 30 名が参加しました。

講習会では、農研機構東北農業研究センターの屋比久氏から、乾田直播栽培のプラウ耕鎮圧体系のコンセプトやメリット、東北での取り組み状況や収量についての情報や、入水までを中心とした雑草防除のポイント等について学びました。

また、現地検討会では、実際の苗立状況や入水のタイミング、雑草防除等について確認するとともに、普及センターから管内の乾田直播の生育状況等について紹介しました。活発な質問や意見交換が行われ、今後の栽培管理に向けて有意義な研修会となりました。

普及センターでは、今後も乾田直播栽培の普及や安定生産技術の向上に向け支援していきます。

○イネ紋枯病対策・高温対策を学ぶ

令和 7 年 6 月 12 日

仙台農業改良普及センター



5 月 27 日、J A 仙台中央営農センター主催の水稲栽培講習会が開催され、生産者 20 名が参加しました。

古川農業試験場病害チームの狐塚氏から、イネ紋枯病の発生しやすい条件や収量・品質への影響等の基礎知識を学ぶとともに、令和 6 年度に実施した現地試験の結果とそれらを踏まえた防除対策について説明いただきました。

普及センターからは、高温対策として、追肥による葉色維持や出穂後の水管理、適期刈取に向けた刈取時期の目安等について情報提供を行いました。紋枯病の対策については、令和7年度も引き続きJA、生産者の方々の協力のもと、古川農業試験場と連携して検討していきます。

○水稲乾田直播栽培の研修会と現地検討会を開催しました！ 令和7年6月17日 仙台農業改良普及センター



令和7年6月9日に大和町のJA新みやぎあさひな統括営農センターで、水稲乾田直播栽培研修会・現地検討会を開催しました。

農研機構東北農業研究センターの研究員3名を講師として招き、前半は水稲乾田直播栽培（以下、乾直栽培）について室内研修、後半は実際に取り組んでいるほ場を見学しながら現地検討を行いました。それぞれ質疑応答の時間を設け、施肥管理や除草剤の使い方などについて日頃生産者が抱えている疑問を解消する場となりました。

当普及センターでは、昨年度から黒川地域で乾直栽培に取り組む農業法人を対象に、水稲の安定生産と面積拡大に向けた支援を行うプロジェクト課題に取り組んでおり、今年は雑草の発生が抑制され順調な滑り出しとなっています。

今後も管内の乾直栽培の普及拡大に向けて、生産者を支援してまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○令和7年度宮城県さつまいも栽培研修会が開催されました 令和7年6月3日 亘理農業改良普及センター



令和7年5月21日に山元町の株式会社やまもとファームみらい野を会場に生産者や関係機関54人が参加して宮城県園芸推進課主催のさつまいも栽培研修会が開催されました。

会場になった株式会社やまもとファームみらい野は、さつまいもを約15ha栽培し、育苗ハウス、移植機、収穫機、調製施設、大型貯蔵庫を有した大規模法人で、市場出荷に加え、干し芋の製造のほか、令和3年からは香港に輸出するなどさつまいもの生産振興に取り組んでいます。

研修会では、日本いも類研究会会長の小巻氏から「外観品質の良いさつまいもをたくさん収穫するため」と題して苗生産や土壌条件などについて、JA全農営農・技術センター農産物検査室の沼上氏から「土質が異なるほ場での品質比較について」それぞれ御講演いただきました。また、農業・園芸総合研究所情報経営部から経営指標、産業技術総合センター食品バイオ技術部から品種別品質について情報提供がありました。研修会後には株式会社やまもとファームみらい野のさつまいもほ場を視察しました。

亘理管内のさつまいも栽培は、5月から6月に定植され、8月下旬から収穫される予定であり、品質の良いさつまいもを生産する参考になりました。

普及センターでは、さつまいもの育苗、定植、収穫の作業を中心とした栽培技術の向上について支援を行っていきます。

○令和7年度南三陸ぶどう栽培花穂整形技術研修会が開催されました 令和7年6月3日 気仙沼農業改良普及センター



令和5年11月に南三陸町のぶどう生産者で設立された「南三陸大粒ぶどう協議会」では、令和6年度から会員が生産したシャインマスカットなどの大粒種ぶどうを「しおかぜ葡萄」としてブランド化し販売を行っています。

そこで、「しおかぜ葡萄」の高品質・安定生産に向け、令和7年5月26日に南三陸大粒ぶどう協議会による栽培技術研修会が開催され、南三陸町のぶどう生産者14名が参加しました。普及指導員が講師となり、新梢誘引や花穂整形等の栽培管理を実演するとともに、無核化处理や病虫害防除等の今後の重要な栽培管理について説明を行いました。参加者からは、「どの新梢を残すべきか」、「無核化处理のタイミングの見極め方はどうか」など、多くの質問や意見が寄せられたほか、参加者同士で活発な意見交換を行っている様子も見られ、有意義な研修会となりました。

普及センターでは高品質・安定生産に向けた、現地

での栽培研修会のほか、南三陸さんさん商店街での販売会の開催などPR活動についても、引き続き支援を行っていきます。

○さつまいもの定植が進んでいます 令和7年6月5日 亘理農業改良普及センター



亘理・名取地域のさつまいもは、山元町の被害農地で平成28年から大規模な栽培が始まり、令和7年は約20ha栽培される予定で、苗の定植が5月上旬から始まっています。生育期間を確保するため、6月末には終わるように定植作業が進められています。

さつまいもは、9月上旬から収穫する予定で、収穫後熟成させてから、出荷されます。市場出荷のほか、地元の直売所で青果や干し芋、焼き芋でも販売されます。

普及センターでは、育苗、定植、収穫の作業を中心とした栽培技術の向上について支援していきます。

○スマート農機の活用によりさつまいもの定植が行われました 令和7年6月5日 大河原農業改良普及センター



仙南地域では農地整備に伴い、高収益作物の生産に取り組む法人が増えています。ほ場整備後は、区画面積が大きくなることから、スマート農機等の導入による省力化や作業の効率化が進められています。

本県では、農業・園芸総合研究所と全国農業協同組合連合会宮城県本部が共同し、露地園芸の大規模生産の推進に取り組んでおり、RTKシステムを活用した精度の高い機械化一貫体系の確立と、スマート農業の効果を実証するため、さつまいもの現地実証ほを設置しています。

5月28日、川崎町の農事組合法人ふるせきファーム

のほ場で、トラクターの直線アシスト（自動操舵）機能を使用した畝立・マルチ展開（生分解性マルチ）と半自動移植機によるさつまいも苗の定植が行われました。

自動操舵によりまっすぐに畝が立てられるのを見て、法人の構成員からは、高齢化も踏まえ省力化技術を積極的に取り入れたいといった意見が出されました。

普及センターでは関係機関と連携し、スマート農機の活用による露地園芸の大規模生産体系の確立を支援してまいります。

○登米管内各生産部会の総会が開催されました 令和7年6月5日 登米農業改良普及センター



J Aみやぎ登米では、4月中旬から5月上旬までに水稻、野菜、花き、果樹各部会の総会を開催し、普及センター職員もそれぞれの総会に出席しました。

このうち4月18日に開催されたねぎ部会総会では、「昨年度の猛暑により品質や収量へ影響も生じたが、市場からは高評価をいただくことができ、単価は高く、年間販売額は目標の2倍となる6,400万円に達することができた。」と部会長から報告がありました。

ねぎ部会総会の議案審議では4議案全てが原案通り承認され、令和7年度も「組織機能の充実による産地確立」や「出荷規格の統一化」等、8項目の基本方針に沿って活動していくことを確認し、閉会しました。

普及センターでは、今後も各部会の活動について支援を行ってまいります。

○りんご摘果講習会が開催されました 令和7年6月9日 亘理農業改良普及センター





残した果実

令和7年5月下旬にりんご摘果講習会が亘理町や岩沼市の3組織で開催され、作業を担当するパートを含む合計45人の参加がありました。

りんごは1つの花芽から5～6個の花が咲くので、真ん中の「中心果」を1個残して摘み取り、さらにそこから良い果実を選んでいくことで、品質の高いりんごが生産できます。

普及センター職員が講師として、気象経過、りんごの開花期、摘果の作業手順について説明し、摘果の実演を行いました。また、果樹カメムシ類の飛来が管内のりんご園で確認されているので、防除対策について情報提供を行いました。参加者は作業手順や取り除く果実を確認していました。

普及センターでは、品質の高いりんご生産に向けて、栽培管理及び病害虫防除の支援を行っていきます。

○JA新みやぎ栗っこきゅうり部会の現地検討会が開催されました

令和7年6月10日

栗原農業改良普及センター



令和7年5月23日(金)、JA新みやぎ栗っこきゅうり部会の現地検討会が鈴木副部会長のほ場で開催され、部会員10名が参加しました。

はじめに、鈴木副部会長から今年度導入したCO₂局所施用システムについて説明いただきました。きゅうりのハウス内にCO₂を施用することで、光合成効率を上げて生産量を増加させる狙いがあり、既に良好な初期生育がみられました。このシステムを導入した他の生産者では収量が1～2割向上した事例もあります。

次に、きゅうり部会の主力品種を取り扱う種苗会社の担当者から、高温期における栽培管理について解説いただきました。特に、土壌水分に注意し必要に応じて灌水を増やすこと、生育期間中の肥培管理を徹底するよう助言いただきました。

普及センターからは、この時期発生が多い菌核病の防除のポイントのほか、高温期における薬害発生のリスクと回避方法について説明しました。今後は高温多湿条件となるため病害虫が発生しやすく、対策として防除間隔を短くしたうえでローテーション散布を行うよう助言しました。

参加者からは、CO₂局所施用システムに関する質問が多く、生産者間で積極的な意見交換が行われ、有意義な現地検討会となりました。普及センターでは、今後も栽培技術向上を支援していきます。

○「くりはらマルシェ」にて栗っこズッキーニの販売が行われました！

令和7年6月10日

栗原農業改良普及センター



令和7年5月29日(木)、県庁1階ロビーで開催された「くりはらマルシェ」にJA新みやぎ栗っこズッキーニ部会が出店し、ズッキーニの販売を行いました。

販売会では、生産者がサラダや炒め物など手軽な食べ方をお客様に説明し、栗原産ズッキーニをPRしました。新鮮で色つやのある外観が好評で、何本もズッキーニを買い求めるお客が多く、約300本のズッキーニは2時間半ほどで完売しました。

栗っこズッキーニは6月から7月にかけて本格的な出荷を迎えます。皆様もお近くのスーパーや栗原市内の農産物直売所等で、ぜひ栗っこズッキーニをお買い求めいただき、召し上がってください。

普及センターでは、今後も生産者や関係機関と連携しながら、ズッキーニの産地育成に向けた支援を行っていきます。

○JA仙台亘理花卉部会土壌管理講習会が開催されました

令和7年6月10日

亘理農業改良普及センター



令和7年6月5日にJ A仙台逢隈支店会議室でJ A仙台亘理花卉部会土壤管理講習会が開催されました。

今回は、部会員3人に対して、普及センターから土壌分析結果をもとに、次作の施肥管理等について指導しました。

出席者はベテラン生産者でしたが、定期的に土壌分析を続けることで、土壌に問題が無いことや土壌の状態が分かるのは良いことだとの意見が聞かれました。

普及センターでは、J A等と連携して持続的な花き生産を支援していきます。

○蔵王地区いちじく芽かき講習会が開催されました

令和7年6月17日

大河原農業改良普及センター



令和7年5月27日に部会員の園地を会場に「蔵王地区いちじく部会芽かき講習会」が開催され12人が参加しました。普及センターは講師として、芽かきの目的や方法を中心に栽培管理について説明をしました。

また、当日はベテラン生産者による実演も行われました。栽培経験の浅い生産者からは「自分だったら残してしまう芽が不要だと学べて良かった」等の声が聞かれました。

普及センターは今後も果樹の安定生産にむけて支援を続けてまいります。

○令和7年産たまねぎの生産者巡回と栽培研修会を実施しました

令和7年6月17日

大河原農業改良普及センター



大河原農業改良普及センターでは、J Aみやぎ仙南と連携し、たまねぎの収量向上に向けた支援をしています。5月2日、7日には普及センターとJ Aでたまねぎ生産者への巡回指導を行い、生育状況を確認しました。また、5月20日にはJ Aたまねぎ部会の出荷会議にあわせて、令和7年産の収穫に向けた栽培研修会を実施しました。出席した部会員は、収穫直前まで病害虫防除を続けること等を再確認した様子でした。

大河原管内では、たまねぎの収穫期間は6月上旬から7月上旬まで続きます。J Aみやぎ仙南は、たまねぎ部会員向けに作業機械をリースするとともに、収穫後の乾燥、調製、選別、出荷作業を一括して請け負うなど、生産出荷体制の整備を進めています。

普及センターでは今後も、地域一体となって園芸生産額向上に取り組んでまいります。

○みやぎ亘理いちご部会の令和8年産育苗研修会が開催されました

令和7年6月17日

亘理農業改良普及センター

令和8年産の育苗作業が本格的に始まるのを前に、令和7年5月20日にみやぎ亘理いちご部会主催の「いちご育苗管理講習会」が行われ、23名の生産者が参加しました。

最近の高温の影響を考慮し、講習会では前半の親株管理からかん水の回数が増えることで肥料が切れないようにすること、かん水と肥料を適切に行い、苗数を確保することを説明しました。育苗中期には目標とする収穫時期から夜冷処理時期などを逆算して採苗を開始し、採苗後もホコリダニ、チョウ目害虫を含む病害虫防除対策を丁寧に行うよう研修しました。

生産者の方々は、収穫期間中の忙しいところではありましたが、次作に向けて、苗づくりの要点を確認しました。

みやぎ亘理いちご部会における令和7年産いちごの販売実績(5/20時点)は、対前年比で重量100%、金額104%になっています。普及センターでは、今後も関係機関と連携し、いちごの生産額増加に向けて支援していきます。

○長葱現地検討会開催「暑さ対策！」

令和7年6月18日

石巻農業改良普及センター



令和7年6月10日に石巻市長葱生産組合の現地検討会が開催され、組合員7人と種苗会社、種苗店、J Aいしのまき、普及センターでほ場を巡回しながら

生育状況を確認した後、今後の管理について検討が行われました。

今年は、今のところ昨年のような猛暑は少なく、日照時間も少ない状況から、地温が上がらず初期生育がやや遅れている状況ですが、病害虫の被害も少なく順調に生育しています。

しかし、今後、夏の猛暑が予想されることから、高温時の管理や品種の特性、病害虫防除対策及び樹勢維持回復資材について、種苗会社のテクニカルサポートを中心に基本的な栽培指導が行われ、普及センター、JAから情報提供を行いました。

参加した生産者の方々は、今後の猛暑に備えた対策について熱心に聞き、質問をしながら理解を深めていました。今後も定期的な巡回指導を通じて安定生産を支援していきます。

○春ねぎの出荷に向けて 令和7年 6月18日 仙台農業改良普及センター



仙台農業改良普及センターは、JA新みやぎあさひなねぎ部会を対象に産地の維持・強化に向けた支援を行っています。

部会員の大半は70歳を超えていますが、近年、若い生産者が作付け拡大を図るなどの動きも見られます。

夏ねぎや秋冬ねぎ、曲がりねぎを組み合わせた出荷を行っています。端境期である5～6月は抽苔による品質の低下で出荷量が少ない状況にあります。このため、普及センターでは5～6月穫り品種の選定や作業体系について、展示ほを設けて検討し、高品質な春ねぎ生産を目指しています。

○そらまめの出荷に向けた現地検討会が開催されました 令和7年 6月18日 大河原農業改良普及センター



仙南地域のそらまめは、東北有数の産地として、市場への出荷の他、ゆうパックで全国に配送されるなど、人気を集めています。

需要が高まる6月を前に、令和7年5月20日から23日にかけて、JAみやぎ仙南主催のそらまめ講習会及び現地検討会が、蔵王地区、村田地区、白石地区でそれぞれ開催されました。

普及センターからは、より良いそらまめを出荷できるよう、収穫直前の管理についての情報提供を行いました。現地検討会では、収穫直前の病害虫防除の方法や、収穫適期等について話題が出され、他の生産者と作業のポイントを確認しました。

普及センターでは、今後も仙南地域におけるそらまめの品質向上に向けた支援を続けてまいります。

○名取岩沼地域で各種きゅうり講習会等が開催されました 令和7年 6月19日 亘理農業改良普及センター



名取・岩沼地域では、令和7年産の促成きゅうりの栽培が終了し、今後抑制きゅうりが作付けされることからきゅうり生産者を対象にした「抑制胡瓜栽培講習会」と「促成胡瓜出荷反省会」がそれぞれJA名取岩沼ハウス胡瓜部会と岩沼ハウス組合の主催で開催され、生産者やJA仙台的の営農指導員、資材メーカーなどが参加しました。

「抑制胡瓜栽培講習会」（6月4日開催）では、種苗メーカーから県内産促成作の生産状況や抑制栽培の栽培方法などを、当所からは「施設の保守点検や土壌肥料関係」の情報を提供しました。

一方、「促成胡瓜出荷反省会」（6月10日開催）では促成きゅうりの出荷状況や生産者個々に促成作の問題や課題を挙げ、生産の振り返りを行い、当所から各生産者ほ場の土壌分析の結果を示し、次作に向けて分析結果に基づく施肥管理を指導しました。

生産者からは、「ほ場へ投入した有機物の影響は？」「苦土石灰を施用した効果がどのように反映されるのか？」などの質問が相次ぐ活発な研修会となりました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、地域のきゅうり生産を支援していきます。

○仙南地域の園芸振興について意見交換を行いました

令和7年 6月 19日

大河原農業改良普及センター



令和7年6月12日、みやぎ仙南農業協同組合（JAみやぎ仙南）と仙南地域の園芸振興について意見交換を行いました。

仙南地域は、平場から中山間地までの広範囲にわたり、地区ごとに野菜、花き、果樹等の多彩な品目が生産されているほか、販売方法も市場や生協出荷、直売など多様な取組が行われています。また、JAみやぎ仙南では、広域合併から20年以上が過ぎ、園芸品目を栽培する担い手の減少と高齢化によって農協取扱高の伸び悩みが課題となっています。

意見交換では、ほ場整備事業に関連する高収益作物として「たまねぎ」や「さつまいも」を推進していくことを申し合わせたほか、空きハウス等を活用した軽量野菜の導入はどうか、などの意見が出されました。

今後も定期的に意見交換を行い、仙南地域の園芸産出額の向上に取り組んでいきます。

○JA 新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました

令和7年 6月 19日

仙台農業改良普及センター



6月12日、JA新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました。

当日は参加者の園地を巡回しながら、栽培管理や生育、病虫害の発生状況等の確認を行いました。今年の4月上旬は平年に比べ降水量が多く、日照時間も少なかったため肥大は昨年より小さめで推移しています。凍霜害による被害は確認されませんでした。病虫害の発生は降雨の影響からか、斑点落葉病がどの園でも確認されました。また、昨年の秋にカメムシ

類が多く見られたことから、被害が心配されていますが、今のところは被害はないようです。引き続き注意深く園内を観察するようにアドバイスを行いました。

普及センターでは、今後も引き続き防除や栽培管理指導を行い、果樹の安定生産を支援してまいります。

○JA みやぎ登米スプレーギク部会で出荷査定会、現地検討会が開催されました

令和7年 6月 20日

登米農業改良普及センター



令和7年6月12日に、JAみやぎ登米スプレーギク部会の出荷査定会、現地検討会が行われました。

現在出荷中のスプレーギクについては、切り前、花首の長さ等に問題はなく、盆出荷に向けて栽培管理を徹底してほしい旨、卸売市場の担当者から話がありました。

引き続き実施した現地検討会では、2人の生産者の園を巡回しました。普及センターより、昨年発生が多かったアザミウマ対策や高温対策について説明し、定期的な防除の必要性を呼びかけました。

生産者からは、高温による花色の不明瞭、苗代の高騰、高品質の苗の確保が難しいといった悩みが出され、活発に情報交換がされました。

普及センターでは、今後も、高品質なスプレーギクを安定的に出荷できるよう、栽培技術指導を中心に支援していきます。

○オリーブの巡回指導が行われました

令和7年 6月 24日

石巻農業改良普及センター



令和7年6月11日に、石巻市役所と普及センターによるオリーブ生産者の巡回指導が実施されました。当日は北上地区の生産者2法人、雄勝地区の生産

者1法人を巡回しました。過去2年はこの時期に開花が始まっていましたが、今年は5月の気温や日射量が平年より低かったためか、いずれの園地も開花に至っておらず、開花は1週間後くらいと見込まれました。各園地とも生育は概ね良好で、花芽の着生数も良好でした。今後、花が順調に受精すれば、花の半分程度の結実で1果重が充実し良好な収量になります。

普及センターでは10月の収穫と特産のオリーブオイルの搾油作業が順調に行われるよう、今後の生育経過を見守ります。

○つるむらさきの現地検討会が行われました 令和7年6月25日 大河原農業改良普及センター



6月20日、JAみやぎ仙南つるむらさき部会の現地検討会が蔵王町で行われました。本年度は、春先の気温が昨年よりやや低下傾向で推移したため、出荷が例年より一週間程度遅く5月7日から開始されています。

現在、つるむらさきの生育は順調で、現地検討会では、近年、発生が多くなっている紫斑病対策としての農薬の使用法、今後予想される高温対策を中心に技術対策について普及センターから説明を行いました。なお、現地検討会に先立ち、部会総会と目揃い会が行われました。

普及センターでは、今後も県内一の産地であるつるむらさきの生産支援に取り組んでいきます。

○JA みやぎ登米米山支部タマネギ部会の現地検討会が開催されました 令和7年6月26日 登米農業改良普及センター



令和7年6月12日に、JAみやぎ登米米山支部タマネギ部会の現地検討会が開催され、部会員9人が参加しました。登米管内におけるたまねぎ栽培は米山町を中心に取り組まれており、主に加工業務向けに出荷されています。

普及センターからは、収穫期の対策と今後の気象予報について説明を行いました。また、部会員のほ場を巡回し、部会員と共にたまねぎの生育の進み具合や病害虫・雑草対策について確認を行いました。

普及センターでは、今後も生産技術向上、部会活動活性化等に向けた支援を行っていきます。

○加工用ばれいしょの生育を確認！石巻地域現地検討会を開催 令和7年6月30日 石巻農業改良普及センター



令和7年6月25日に東松島市大塩・矢本地域と石巻市桃生地域で加工用ばれいしょを栽培している農業法人5社を対象に「石巻地域ばれいしょ現地検討会」を開催しました。農業法人5社のほか、農地整備事業地区の担い手やJAいしのまきの営農部担当者、市や県関係者など27名が参加しました。

普及センターからこれまでの気象経過や各生産法人の耕種概要、生育調査結果を説明し、生産者からは取組状況が報告されました。また、出荷契約先であるカルビーポテト株式会社から疫病や軟腐病防除、尿素の葉面散布による追肥などの説明をいただきました。

収穫まで約1か月ほどありますが、当日の掘り取り調査では、いもが順調に肥大していることが確認できました。今のところ、生育は5社全ほ場で順調で、早いほ場では7月下旬から収穫できる見込みです。

普及センターではJAいしのまきと連携して、これからも加工用ばれいしょの作付け拡大に取り組んでいきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○今年の乾田直播はどうか？水稻乾田直播現地検討会 令和7年6月2日 石巻農業改良普及センター



令和 7 年 5 月 16 日（金）、5 月 22 日（木）に J A いしのまき主催の水稲乾田直播現地検討会が開催されました。

管内の乾田直播栽培のほ場を巡回し、出芽や雑草の発生状況の確認を行いました。今年は昨年と比べて春先は涼しく、稲の出芽時期も例年並みとなりました。生産者からは入水前の除草剤のタイミングや入水の時期について質問があり、稲やヒエの葉齢や苗立ち本数を確認しながら、防除のタイミングを検討しました。農研機構の講師からはノビエ葉齢予測アプリの紹介がされ、生産者は活用に意欲的な様子でした。

乾田直播栽培は県内で普及が進んでおり、石巻地域では令和 6 年で約 1,200 h a の栽培面積となっています。今後も拡大が見込まれますので、安定した収量・品質を確保した稲作を推進するため、地域一丸となって取り組んでいきます。

○作業時間が 1/3 に！RTK システムを活用した超省力的な除草剤散布を実証しました。

令和 7 年 6 月 9 日
農業振興課



5 月 23 日に、石巻市桃生町のほ場にて、R T K システムを活用した水稲乾田直播栽培の省力的な除草剤散布作業の実証を行いました。

今回の実証では、① R T K による自動操舵、② トラクターマウント型の大型ブームスプレーヤー（タンク容量 1,600 L、散布幅 21m）の活用、③ 除草剤の少量散布（50 L / 10 a）、④ R T K の位置情報を利用したセクションコントロール技術（5 c m 単位での制御）、⑤ 2.2 h a の大区画ほ場、の 5 つの技術を組み合わせ、作業時間がどの程度短縮できるか検証しました。

実証の結果、通常の除草剤散布（乗用型ブームスプレーヤー、タンク 600 L、散布幅 16m、散布量 100 L / 10 a）では 60 分程度かかるところを、約 1 / 3 の 20 分程度で散布作業を終えました。

いつも散布作業を行っている作業員も作業速度の速さに驚いており、R T K システムに様々な技術を組み合わせることで、省力的・効率的な作業が可能になることが示されました。

県では、R T K の基地局を整備し、5 月末現在で 260 者程度が R T K システムを利用しています。今後も、R T K を有効活用した省力的な技術を実証し、農業の生産性向上を支援していきます。

○J A みやぎ登米迫稲作経営部会の現地検討会が開催されました

令和 7 年 6 月 10 日
登米農業改良普及センター



令和 7 年 6 月 4 日に、J A みやぎ登米迫稲作経営部会の現地検討会が開催され、生産者及び農薬メーカー担当者約 15 人が参加しました。

当日は部会員の 6 ほ場を巡回し、水稲の除草剤試験の効果と生育状況の確認を行いました。除草剤試験については、6 ほ場とも高い抑草効果が出ていることを農薬メーカー、生産者とともに確認することができました。生育については分けつが出始めており、順調に生育していることを確認することができました。今後の管理として、分けつを促すための水管理や熱中症への注意喚起などについて、普及センターから情報提供を行いました。

普及センターでは、今後も水稲の収量・品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○良質米生産を目指して、つや姫栽培講習会が開催されました

令和 7 年 6 月 12 日
登米農業改良普及センター



令和7年6月4日、J Aみやぎ登米西部営農経済センター主催のつや姫栽培講習会が開催され、栽培者及び関係機関から約50名が出席しました。迫稲作経営部会長からは「以前は部会員内で栽培講習会を行ってきたが、昨年度から迫町域全体の栽培者も対象としたところ非常に好評だったため、今年も同じ形で開催した。安定してつや姫を供給できる体制を整えていきたい。」と挨拶がありました。

普及センターからは、つや姫は特別栽培米に準じた栽培を行うことが必須であることを始めに説明し、次に品種特性と栽培のポイント、気を付けるべき病害虫の対策について説明しました。また、つや姫は刈遅れにより茶米が発生しやすくなるため、刈取適期の考え方についても説明を行いました。熱心にメモを取る出席者も多く、つや姫栽培に対する意欲が感じられました。

この他、全農みやぎからは現在の米穀情勢、メーカー10社からの農業資材の説明などがあり、内容の濃い研修会となりました。

普及センターでは、今後も登米市内の水稻生産について支援を行ってまいります。

○第13回全国和牛能力共進会北海道大会に向けた24ヵ月早期肥育試験の巡回を行いました 令和7年6月17日

仙台農業改良普及センター



令和9年に北海道で開催される第13回全国和牛能力共進会の肉牛の部では、一般的な肥育期間である30ヶ月齢程度よりも短い、24ヶ月齢未満で出荷された牛の枝肉が出品されます。

6ヶ月以上も肥育期間を短縮することは、飼育管理の上で難しい技術であることから、全共で日本一を獲得するため、県内各地域の代表的な肥育農家が肥育試験に取り組んでいます。当普及センター管内では、大和町の（有）根元ファームが試験に取り組んでいます。

6月12日（木）に、関係機関による巡回調査が行われ、試験牛2頭を対象に、体尺測定や血液検査、超音波肉質診断等が行われました。J A全農みやぎと畜産試験場の職員が中心となり、通常はと畜後にしか判明しない、肥育牛の筋肉の大きさや肉質について、超音波肉質診断を実施し、成長具合を確かめました。

本試験牛は、今年の9月頃に枝肉調査が行われる予定です。2年後の全共本番に向けて、普及センターも生産農家の支援に取り組んでまいります。

○第13回全国和牛能力共進会北海道大会に向けた24ヶ月早期肥育試験巡回が開催されました。

令和7年6月18日

大河原農業改良普及センター



令和7年6月10日に、全国農業協同組合連合会宮城県本部及び畜産試験場などが角田市2戸、川崎町1戸および村田町1戸の協力農家において、肥育牛（試験牛）12頭の体尺測定や超音波肉質診断などを行い、発育状況、体型の仕上がり具合を確認しました。また、畜産試験場が中心となり、生体内の脂肪交雑や筋肉の大きさを可視化した画像を収集しました。さらに、これからの暑熱期での飼養管理の注意内容を共有しました。

本試験は、令和9年8月に開催される第13回全国能力共進会北海道大会（以下、全共）への出品にむけた取組です。通常のと畜月齢よりも約6ヶ月早く出荷するため、「早期肥育」体系に即した飼養技術が求められます。

経験豊かなベテランの肥育農家が、全共での出品に向けて、日々丁寧な飼養管理を実施しています。令和7年9月には、試験牛は仙台市中央卸売市場食肉市場に出荷され、上場枝肉について調査会が予定されています。

普及センターでは、農家及び関係機関と連携し、早期肥育技術の向上とともに、全共での上位入賞に向けて取り組みます。

○小麦ほ場巡回指導会が開催されました
令和 7 年 6 月 23 日
登米農業改良普及センター



令和 7 年 6 月 18 日に J A みやぎ 登米主催で豊里地区の令和 7 年産小麦ほ場巡回指導会が開催され、生産者 6 名が参加しました。

普及センターからは、事前に測定した穂水分から、成熟期や刈取適期の目安について説明しました。また、赤かび病被害粒混入防止のための注意点などについて話しました。赤かび病被害粒の混入防止には、適期収穫、速やかな乾燥、粒厚・比重選別がポイントとなります。刈遅れて雨にあたると、被害が拡大するため、適期収穫を呼びかけました。その後、巡回によりほ場状況を確認し、生産者と情報交換を行いました。品質向上を目指し、豊里地区では 7 月上旬頃からは刈取が始まる予定です。

普及センターでは、今後も登米管内の麦類の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

⑥地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○「なとり・ぐるっと親子講座」が開催されました
令和 7 年 6 月 3 日
亘理農業改良普及センター



令和 7 年 5 月 25 日に名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（事務局：名取市農林水産課）が主催する「第 1 回なとり・ぐるっと親子講座」開講式、田植え体験が開催され、亘理農業改良普及センターも運営を支援しました。「なとり・ぐるっと親子講座」は、東日本大震災、新型コロナウイルス感染拡大により一時休止期間ありましたが、平成 13 年度から長く継続されている事業です。「ぐるっと」とは、名取市内の

農産物のもぎとり体験をしながらぐるっと回ることによって来ています。

当日は、あいにくの雨により手植えでの田植え体験は中止になり、生産者による水稻栽培作業の説明と田植機での移植作業や機械・施設の見学に変更になりました。

参加した子供たちは、田んぼに入っただけの手植え体験ができなくなり残念そうでしたが、講座の終盤に、自宅でバケツに植えられるように一握りの苗がお土産に渡されると「頑張って育ててみる」と元気の返事がありました。

秋には、田植機で移植した水稻を手刈りする予定です。

当普及センターでは、名取市地域農産物等消費拡大推進協議会の活動とともに、管内農産物の魅力発信を支援してまいります。

○大衡村産トマトを使った“トマトクリームリゾット”
が販売されています！
令和 7 年 6 月 6 日
仙台農業改良普及センター



株式会社未来彩園（大衡村）では、年間 280 t を越えるトマトを生産しています。このたび、生産しているトマトを使用した“トマトクリームリゾット（缶詰）”を開発し、販売が開始されました。

この商品は、みやぎの新たなローカル・フードビジネスの創出を目的とした県事業により商品化したものです。

県産森林どりや椎茸も入り、美味しさは、上々！！新たな大衡村の特産品として期待されています。

※お問合せ先：株式会社未来彩園（公式ホームページ）
<https://www.miraitomato.com>

○酒米サポーターズクラブの田植えが開催されました
令和 7 年 6 月 9 日
気仙沼農業改良普及センター



令和7年5月25日に、気仙沼市の廿一地区で、生産者、地元酒蔵、酒販売店等で構成された酒米サポーターズクラブによる酒米「蔵の華」の田植えが開催されました。廿一（にじゅういち）地区は中山間地域に棚田が大きく広がり、沢ではわさび、秋には栗がとれる自然豊かな地域です。

この取り組みは歴史が深く、今年で24年目を迎えました。気仙沼市内の蔵元2社（株式会社男山本店、株式会社角星）を含む約40人が参加し、開始直前は雨に見舞われましたが、田植えが始まる頃には雨も止み作業に熱中することができました。

秋には収穫イベントも予定されていますので、稲の成長を願い今回の作業は予定通り終了しました。

普及センターでは酒米の高品質・安定生産に向け、現地での栽培研修会開催など、引き続き支援を行っていきます。

○まぼろしのメロン「クールボジャ」が出荷開始されました

令和7年6月13日

亘理農業改良普及センター



岩沼市の農事組合法人林ライスで栽培しているメロン「クールボジャ」の出荷が令和7年6月10日にスタートしました。温度や水の栽培管理が難しく、生産者が少ないことから「まぼろしのメロン」と呼ばれています。収穫期間は6月末まで、1,200箱の出荷を予定しています。主に栽培施設内で直売していますが、既に約9割の予約が入っており、入手困難な状況です。岩沼市のふるさと納税の返礼品に採用されている人気農産物です。

東日本大震災後に栽培が再開され、復興のシンボルのひとつとされるメロン「クールボジャ」の生産を普及センターは、引き続き支援してまいります。

※「クールボジャ」メロンの販売については、農事組合法人林ライスへ直接お問い合わせください。

2. 持続可能な農業・農村の構築

① 環境に配慮した持続可能な農業生産

○環境にやさしい防除技術として、天敵ダニ製剤を導入しました

令和7年6月13日

仙台農業改良普及センター



仙台普及センターでは利府町の名産品である梨での「みどりの食料システム戦略」を実現するため、環境にやさしい防除方法の推進しています。

具体的には、化学合成農薬の使用を削減し、天敵ダニ製剤を活用した果樹ダニ類の防除技術の実証に取り組みます。この技術の導入により、防除回数の減少による労働時間削減も期待できます。

今回、宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部と協力して、現地調査も行いました。導入した当日は、樹上にいるダニ類や下草にいる天敵ダニ類のカウント等を行いました。10樹を調査して、1樹あたり30葉を確認したところ、「ナミハダニ」は1頭確認しました。下草は広葉の雑草が多くあった方が天敵ダニのすみかとなり、効果も高くなることから、木の下だけを高め刈ってもらった等の指導を行いました。

今後、継続して調査を行い、環境に配慮した防除技術の確立に向けて今後も活動を展開していきます。

○さつまいも栽培の省力化に向けた「生分解性マルチ」の実演会を開催しました

令和7年6月24日

美里農業改良普及センター





令和7年5月8日(木)に、J A新みやぎみどりの田尻支店と大崎市田尻の農事組合法人おおぬき彩土里(いろどり)ファームのほ場を会場に、さつまいも栽培の省力化に向けた生分解性マルチ実演会を開催したところ、生産者やJ A等の関係機関から約30人に御参加いただきました。

最初に生分解性マルチを製造・販売している株式会社みかど化工(千葉県)の担当者から生分解性マルチの分解の仕組みや先進地である千葉県の使用事例等について御説明いただきました。

その後ほ場へ移動し、分解速度の異なる複数の生分解性マルチの特徴や取扱い方法について説明いただき、法人の松岡代表によるマルチャーを用いたマルチ張りの実演を行いました。参加者は実際に張ったマルチに触れたり、製造メーカーに質問するなど理解を深めている様子でした。

美里管内ではJ A新みやぎに「さつまいも研究会」が設立された他、キュアリング施設や定植機等施設・機械等の整備が進み、年々栽培面積が拡大しています。生分解性マルチは、収穫時の剥ぎ取り作業が不要になることから作業の省力に繋がることが期待されています。今年度、普及センターでは同法人のほ場を実証ほを設置し、マルチの分解について3種類の生分解性マルチを用いた調査を行い、今後の普及に繋がっていきたいと考えています。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>

〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>

〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>

〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>

〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>

〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>

〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>

〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>

〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>

〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



* 各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.221

発行日:2025 年 7 月 14 日

発 行:宮城県農政部農業振興課

編 集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp